

2023年度 第1回九大本番レベル模試(経|経工) 国語 採点基準

☆二・三の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

一 (評論) 採点基準 (合計≪60点)

問1 11点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点 A③〇1点 A④〇1点

人間の欲望には、主体と対象と、同時に媒体が関与して、三重の関係をなし、へA4点

B〇3点

主体はその欲望を対象への嗜好や関心によるものとするが、へB3点

C①〇1点 C②〇2点

実は媒介者の欲望を、模倣した結果に過ぎないと見なせるから、へC3点

X〈逆説〉→A・B・Cのうち、2要素以上に〇↓+1点

(内容【10点】+構造【1点】≪11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「理由」を説明すべく、ジラールによる「欲望」の端的な説明であるAを、B、Cの

〈矛盾〉する二要素——Bは譲歩的な内容、Cが説明の本体——に引き裂いて説明する〈逆説≪矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、Cの要素〉内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説≪矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、条件B、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせ、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「人間の欲望には主体と対象と同時に媒体が関与して三重の関係をなし」へ4点

※ 傍線部を説明するための、ジラールによる「欲望」の端的な説明の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点

① 「人間の欲望には」の要素。(1点)

✖ 「人間の欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「主体と対象と」の要素。(1点)

○ 「主体としての私と対象と」「主体と客体と」などでも可。

✖ 「主体と対象」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「同時に媒体が関与して」の要素。(1点)

○「のみならず媒体も存在して」「媒介者も関わって」などでも可。

×「媒体の関与」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④「三重の関係をなし、」の要素。(1点)

○「三角構図をなし、」「三重関係を構成し、」などでも可。

×「三重の関係」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「主体はその欲望を対象への嗜好や関心によるものとするが、」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく譲歩的な条件。

○「主体は自らの欲望を客体への好みや関心によるものとするが、」「主体はその欲求を対象へと向う嗜好や興味によるものとするが、」などでも可。

▲①「主体の欲望」②「対象」③「嗜好」関心(どちらかに相当するものがあればよい)のニュアンスの三成分が必要。1つ欠ける毎に▲1点減点。

C 「実は媒介者の欲望を模倣した結果に過ぎないと見なせるから。」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは矛盾する本体的な条件。

①「実は媒介者の欲望を」の要素。(1点)

○「実際は媒介者の欲望を」「本当は媒介者の欲求を」などでも可。

×「媒介者の欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「模倣した結果に過ぎないと見なせるから。」の要素。(2点)

○「真似ただけに過ぎないと判断できるから。」「繰り返した結果だと思えるから。」などでも可。

▲①「模倣」②「見なせる」のニュアンスの二成分が必要。1つ欠けている場合▲1点減点。

問2 8点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○2点

〈A4点〉

宣伝広告の氾濫する現代において、

私たちの欲望が

その対象の使用者への憧れに基づいていたり、

B①○2点

B②○1点

人生にとって重要な、志望校、恋愛相手の選択等が

他者の欲望に従ったものと見えるとき。〈B3点〉

X〈分析〳分けること〉↓A・Bの両方の要素に〇↓+1点

(内容【7点】+構造【1点】〳8点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「とき」を、A、Bの〈矛盾〉しない具体的な二条件に〈分析〳分けること〉として説明してゆく構造への評価である。この場合は、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〳分けること〉

Aの要素+Bの要素

〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「宣伝広告の氾濫する現代において、私たちの欲望がその対象の利用者への憧れに基づいていたり、」〈4点

※ 傍線部の「とき」を具体的に説明する「宣伝広告の氾濫する現代」の側の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点

① 「宣伝広告の氾濫する現代において、」の要素。(1点)

○ 「コマーシャルの氾濫する今、」「宣伝広告で充満させられた現代において、」などでも可。

× 「宣伝広告の氾濫する現代」のニュアンスの成分が入っていないと×。

② 「私たちの欲望が」の要素。(1点)

○ 「我々の欲望が」「私たちの欲求が」などでも可。

× 「(私たちの)欲望」のニュアンスの成分が入っていなければ×。

③ 「その対象の利用者への憧れに基づいていたり、」の要素。(2点)

○ 「その客体の利用者への憧憬から発していたり、」「その対象利用者への憧れに根拠が求められたり、」などでも可。

▲ 「対象の利用者」「憧れに基づく」のニュアンスの二成分が必要。1つ欠けている場合▲1点減点。

B 「人生にとって重要な、志望校、恋愛対象の選択等が他者の欲望に従ったものと見えるとき。」〈2点〉

※ 傍線部の「とき」を具体的に説明する「人生にとって重要なもの」の側の条件。

① 「人生にとって重要な、志望校、恋愛対象の選択等が」の要素。(2点)

○ 「人生において大切な、志望校、職業、居住地などの選択が」「人生で軽視できない、職業、恋愛対象などの選択が」などでも可。

▲ 「人生にとって重要」「志望校or職業or居住地or恋愛対象(どれか一つがあればよい)の選択」の二成分の二成分が必要。1つ欠ける場合▲1点減点。

② 「他者の欲望に従ったものと見えるとき。」の要素。(1点)

○ 「他者の欲望を模倣したものと見えるとき。」「誰かの欲望にならったものと見えるとき。」などでも可。
× 「他者の欲望に従ったものと見える」のニュアンス成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇2点

A②〇1点

媒体と主体の願望可能圏が離れている「外的媒介」ではなく、多少とも重なり合う「内的媒介」では、〈A3点〉

B①〇1点 B②〇2点

模倣を通して、一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、〈B3点〉

C①〇2点

C②〇1点

C③〇1点

実は互いが欲望実現のための「障害」となり、対立や軋轢の関係に入って、憎悪、嫉妬、敵意等を生むと

考えるから。〈C4点〉

X〈逆説〉ABCの2つ以上に〇↓1点

(内容【10点】+構造【1点】=11点)

【構造点】

Xは、傍線部の理由を説明すべく、「外的媒介」と異なる「内的媒介」の条件であるAを、〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明する〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』ではなく、多少とも重なり合う『内的媒介』では、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をするための、「外的媒介」ならぬ「内的媒介」の条件。

①「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』ではなく、」の要素。(2点)

○「媒介者と主体の願望可能圏が重ならない『外的媒介』ではなく、」
「弟子とモデルの願望可能圏が乖離した『外的媒介』ではなく、」などでも可。

✕「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』の否定のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

▲「媒体と主体の願望可能圏」の要素が欠けている場合、▲1点減点。

②「多少とも重なり合う『内的媒介』では、」の要素。(1点)

○「ある程度それぞれの圏が重複する『内的媒介』では、」
「多少少なけれ両者が重なり合う『内的媒介』では、」などでも可。

✕「(多少とも) 重なり合う『内的媒介』のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「模倣を通して、一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明する一方の条件。

① 「模倣を通して、」の要素。(1点)

○ 「模倣を媒介にして、」 「模倣によって」 などでも可。

× 「模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、」の要素。(2点)

○ 「一見すると共有しうる友好関係に入る要素が得られるようにみえながら、」 「外見上は共にしうる友情を交わす要素が得られるように思えるが、」 などでも可。

× 「一見相手と通じる 友好 or 友情 (どちらかがあればよい) の要素が得られるように見える」のニュアンスの成分が入っていないこと。

▲ただし、「一見相手と通じる」のニュアンスが欠けている場合▲1点減点で△1点。

C 「実は互いが欲望実現のための『障害』となり、対立や軋轢の関係に入って、憎悪、嫉妬、敵意等を生むと考えるから。」〈4点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明するための、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。

① 「実は互いが欲望実現のための『障害』となり、」の要素。(2点)

○ 「実際は相互に対象を巡って『障害』となり、」 「現実にはお互いに欲望実現のための邪魔となり、」 などでも可。

× 「互いに欲望実現(対象を巡る)の障害」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

▲ただし、「互いに」の要素ヌケの場合は▲1点減点で△1点

② 「対立や軋轢の関係に入って、」の要素。(1点)

○ 「対立関係に入って、」 「軋轢を抱えた関係に入り、」 などでも可。

× 「対立 or 軋轢 (どちらかに相当するものがあればよい) の関係」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「憎悪、嫉妬、敵意等を生むと考えるから。」の要素。(1点)

○ 「憎悪、恨み、嫉妬などを生むと思われるから。」 「嫉妬、羨望、敵意等を引き起こすと考えられるから。」 などでも可。

× 「憎悪 or 恨み or 嫉妬 or 羨望 or 敵意 (どれかが入っていればよい) を生む」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A ○1点

内的媒介の関係では、〈A 1点〉

B ○1点

主体が媒介者の欲望を模倣したように、〈B 1点〉

C ○1点

媒介者も主体の欲望を模倣して、〈C 1点〉

D ①○3点

X 〈分析〉ABCのうち2つ以上に○↓+1点

D ②○1点

互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、その結果対立が強化されること。〈D 4点〉

Y 〈総合〉Dに○↓+1点

(内容【7点】+構造【2点】=9点)

【構造点】

☆ Xは、傍線部の説明をすべく、話題のAを〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉して説明する構造への評価である。――向きが反対である所に〈矛盾〉をみて〈逆説〓矛盾を含むこと〉と解釈することもある。ここでは、条件A、B、Cの内
の二つがあればこの構造が暗黙裡に構想されているとみなして1点加点。

X 〈分析〓分けること〉 〈A、B、C〉の内二つ以上 ○1点

・ Yは、B、CをDにまとめて結論づける〈総合〓まとめること〉の構造への評価である。ここでは条件Dの要素が一つ以上あればこの構造が暗黙裡に構想されたとみなして1点加点。

Y 〈総合〓まとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせ
せた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「内的媒介の関係では、」〈1点〉

※傍線部の説明をするための話題の条件。

※「内的媒介」の成分が入っていないければ✕。

B 「主体が媒介者の欲望を模倣したように、」〈1点〉

※傍線部の説明をすべく、Aを説明する一方の条件。

○「主体が媒体の欲望を模倣したことく、」
「弟子がモデルの欲望を模倣したように、」などでも可。

※「主体が媒介者の欲望を模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「媒介者も主体の欲望を模倣して、」〈1点〉

※傍線部の説明をすべく、Aを説明する他方の条件。

○「媒体も主体の欲望を模倣して、」
「モデルも弟子の欲望を模倣して、」などでも可。

※「媒介者も主体の欲望を模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D 「互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、その結果対立が強化されること。」〈2点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

①「互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、」の要素。(1点)

○「相互に循環して欲望が強さを増して激しい情熱をもたらし、」
「交互に繰り返されて欲求が強化され、猛

烈な情熱を掻き立て、「などでも可。

▲(1)「互いに」循環する(2)「欲望の強化」(3)「激烈な情熱」のニュアンスの三成分が入って○。1つ成分が欠ける毎に▲1点減点。

②「その結果対立が強化されること。」の要素。(1点)

○「結果的に葛藤が強化されること。」「軋轢の激化をもたらすこと。」などでも可。

✖「対立の強化」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問5 12点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

模倣が 反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、(A 2点)

B①○2点

B②○2点

(B 4点)

主体(弟子)とモデルという立場上の違いが消滅し、誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、

C①○1点

C②○1点

C③○1点

D○1点

同一化の中で 敵対者たちは 互いの分身となっていて、とどまらなくなる。(C 4点)

X(分析)ABCの2種2つ以上に○↓1点

Y(総合)Dに○↓1点

(内容【10点】+構造【2点】=12点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の筆者による捉え方を説明すべく、前提条件のAを、(因果関係)をなす(矛盾)しない二条件B、Cに(分析)分けることとして説明してゆく構造への評価である。ここでは、A、B、Cの要素が二種二つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているものとみなして1点加点。

X(分析)分けること() (Aの要素、Bの要素、Cの要素)の内の二種二つ以上 ○1点

・Yは、B、Cを筆者の捉え方としてDに(総合)まとめることとして結論づける構造への評価である。ここでは条件Dがあれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているものとみなして1点加点。

Y(総合)まとめること() D ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「模倣が反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、」(2点)

※傍線部の筆者の捉え方を説明するための前提条件。

①「模倣が」の要素。(1点)

✖「模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、」の要素。(1点)

○「反響、相互影響する状況になると、」「連鎖、相互影響の状態に入ると、」などでも可○。

✖「反響or連鎖or相互影響(どれか一つがあればよい)」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「主体（弟子）」とモデルという立場上の違いが消滅し、誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、「へ4点」

※傍線部の筆者の捉え方を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

①「主体（弟子）」とモデルという立場上の違いが消滅し、「の要素。」(2点)

○「主体と媒体という立場の違いがなくなり」、「弟子とモデルという立場上の相違が消えてしまい」、「なども可○。

×「主体（弟子）」とモデルの立場上の違いの消滅」のニュアンスの成分が入っていない×。

△ただし、「主体（弟子）」とモデルの」の成分が抜けて「立場上の違いの消滅」のニュアンスのみの場合は▲1点減点で△1点。

②「誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、「の要素。」(2点)

○「誰のものか特定できない欲望に身を任せる両者が存在するだけで」、「誰のものとも知れぬ欲望に流される二人がいるだけで」、「なども可○。

△「誰のものともつかない欲望」「身を委ねる両者がいる」のどちらかのニュアンスが抜けていれる場合、▲1点減点で△1点。

C 「同一化の中で敵対者たちは互いの分身となっていく」(3点)

傍線部の筆者の捉え方を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていなければ0点。)

①「同一化の中で」の要素。(1点)

○「同一性が完成されたとき」、「同一化の過程を経て」などでも可○。

×「同一化」のニュアンスの成分が入っていない×。

②「敵対者たちは」の要素。(1点)

×「敵対者」のニュアンスの成分が入っていない×。

③「互いの分身となっていく」の要素。(1点)

○「分身になってしまふ」、「相互に分身と化す」などでも可○。

×「分身となる」のニュアンスの成分が入っていない×。

D 「とらえている」(1点)

※B、Cをまとめて筆者の捉え方へと結論づけていく条件。

○「と把握している」、「と判断している」などでも可○。

×「とらえている」のニュアンスの成分が入っていない×。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

ジラールの言うように、

共同体内で特定個人に暴力を集中して

スケープゴートにするのではなく、

〈A 3点〉

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

B④〇2点

暴力の根本因である

「同一化」を回避し、

差異を回復するために

意識的に新しい「自己同一性」を

獲得してゆくこと。〈B 5点〉

X 〈分析〉 AとBに〇↓1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、〈notP～butQ〉の構文を形成する〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉して説明していく構造への評価である——〈notP～butQ〉の構文は例えば〈女じゃないよ、男だよ〉のように、〈否定(not)〉の成分が入ることによって、〈矛盾〉を排除して、〈女じゃない〉⇔〈男だよ〉のように二要素間に〈分析〓分けること〉する構造を作り出す——。ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「ジラールの言うように、共同体内で特定個人に暴力を集中してスケープゴートにするのではなく、」〈3点〉

※傍線部を、〈notP～butQ〉の構文で説明してゆく〈notP〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていなければ0点。)

①「ジラールの言うように、」の要素。(1点)

✖ 「ジラール」の成分が入っていなければ✖。

②「共同体内で特定個人に暴力を集中して」の要素。(1点)

○ 「コミュニティ内で標的とされた個人に暴力を集中し」「共同体の中の一定個人に暴力を焦点化し」などでも可○。

✖ 「共同体内の特定個人に暴力を集中」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「スケープゴートにするのではなく、」の要素。(1点)

○ 「贖いの山羊とするのではなく」「供犠の対象とするのではなく」などでも可○。

✖ 「スケープゴートの否定」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B 「暴力の根本因である『同一化』を回避し、差異を回復するために意識的に新しい「自己同一性」を獲得してゆくこと。」〈5点〉

※傍線部を、〈notP～butQ〉の構文で説明してゆく〈butQ〉の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点

- ① 「暴力の根本因である」の要素。(1点)
 - 「暴力がそこから生まれる」「暴力の根源である」などでも可○。
 - ✖ 「暴力の根本因」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。
- ② 『同一化』を回避し、「の要素」。(1点)
 - 『同一化』を排除し、「『同一性』を求めず」などでも可○。
 - ✖ 『同一化』の回避」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。
- ③ 「差異を回復するために」の要素。(1点)
 - 「相違を復活させるために」「差異を取り戻すために」などでも可○。
 - ✖ 「差異の回復」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。
- ④ 「意識的に新しい『自己同一性』を獲得してゆくこと。」の要素。(2点)
 - 「意識的新たな『自己同一性』を生み出してゆくこと。」「意識的に新しい『アイデンティティ』を創りだしてゆくこと。」などでも可○。
 - 「意識的」「新しい『自己同一性』の獲得」のニュアンスの二成分が入っていて○。
 - ▲ 「意識的」の成分が抜けている場合▲1点減点で△1点

□ 現代文（評論）採点基準（合計60点）

問1 8点

（模範解答例）

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

フアッションを

「モード」等のモデルで理解すると

必要不可欠な活動とは言えないが、〈A 3点〉

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

B④〇1点

誰も

何らかのモノを身に纏っていると考えれば、

フアッションから

逃れられる者はいないから。〈B 4点〉

X 〈逆接〉 AとBに〇↓1点

〔内容〕【7点】＋構造【1点】＝8点

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を、〈譲歩―逆接構文〉をなす〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する〈逆説⇨矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈逆説⇨矛盾を含むこと〉

〈Aの要素、Bの要素〉の内の二種二つ以上

〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「フアッションを『モード』等のモデルで理解すると必要不可欠な活動とは言えないが、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をするための〈譲歩〉の条件。

満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点。2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていなければ0点

① 「フアッションを」の要素。（1点）

※ 「フアッション」の成分が入っていないければ✕。

② 『モード』等のモデルで理解すると」の要素。（1点）

○ 『ハイ・フアッション』などのモデルで理解しているかぎり、「『ハイ・フアッション』『モード』という概念で理解していると」などでも可○。

※ 『ハイ・フアッション』or 『モード』のモデルで理解」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③ 「必要不可欠な活動とは言えないが、」の要素。（1点）

○ 「欠くことの出来ない活動とは言えないが」「必ずしも必要な活動とは言えないが、」などでも可○。
✕ 「必要不可欠な活動」の否定ニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「誰も何らかのモノを身に纏っていると考えれば、フアッションから逃れられる者はいないから。」〈4点〉

※ 傍線部の理由説をするための、Aを否定する条件。

満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点。3素以上あれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点

①「誰もが」の要素。(1点)

✖ 「誰もが」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「何らかのモノを身に纏っていると考えると考えれば、」の要素。(1点)

○ 「何らかのモノを身に付けていると考えると、」「何かを身に纏っていると考えるかぎり、」などでも可○。

✖ 「何らかのモノを身に纏っている」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「ファッションから」の要素。(1点)

✖ 「ファッションから」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④「逃れられる者はいないから。」の要素。(1点)

○ 「誰も逃れることはできないから。」「逃れられる者などいないから。」などでも可○。

✖ 「逃れられる者」の否定のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問2 10点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

ファッションとは

自己が見られる存在」として現れる

現れ方のことだが、

B①○1点 B②○1点

自分は 常に誰かに見られる対象として存在し、

C①○1点

C②○1点

C③○1点

したがってファッションは 限定された領域ではなく、

全ての主体に入り込んだ

C④○1点

「力」「宿命」のようなものである」と。

〈C 4点〉

X〈分析〉ABCのうち2つ以上に○↓1点

〈内容【9点】+構造【1点】=10点〉

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、前提条件であるAを、〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているときみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉

〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「ファッションとは自己が『見られる存在』として現れる現れ方のことだが、」〈3点〉

※ 傍線部を説明するための前提である、「ファッション」の定義の条件。

満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。2要素あれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点

①「ファッションとは」の要素。(1点)

✖ 「ファッション」の成分が入っていないければ✖。

②「自己が『見られる存在』として現れる」の要素。(1点)

- 「自分が『見られる存在』となる」「自己が『見られる存在』として浮上する」などでも可○。
- ×「自己が『見られる存在』として現れる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ×「見られる存在」がなければ不可×。

③「現れ方のことだが、」の要素。(1点)

- ×「現れ方」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B「自分は常に誰かに見られる対象として存在し、」〈2点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

①「自分は」の要素。(1点)

- ×「自分」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「常に誰かに見られる対象として存在し、」の要素。(1点)

- 「いつも他者に見られ存在としてあり、」常時誰かから見られる客体として自分が存在し、」などでも可。
- ×「常に誰かに見られる対象として存在」のニュアンスの成分が入っていないければ×。「常に」というニュアンスがない場合は不可×。

C「したがってファクションは限定された領域ではなく、全ての主体に入り込んだ「力」、「宿命」のようなものであること。」〈4点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

満点(4点)内、得点があれば要素点+1点。3要素であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点

①「したがってファクションは」の要素。(1点)

- ×「ファクション」の成分が入っていないければ×。

②「限定された領域ではなく、」の要素。(1点)

- 「限られた領分ではなく、」限定された次元の出来事ではなく、」などでも可○。
- ×「限定された領域」の否定ニュアンスの成分が入っていないければ×

③「全ての主体に入り込んだ」の要素。(1点)

- 「あらゆる主体に組み込まれた」「主体に例外なくしみこんでいる」などでも可○。
- ×「全ての主体に入り込んだ」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④「『力』、『宿命』のようなものであること。」「の要素。(1点)

- 「『力』とも言えるものであること。」「『宿命』とも捉えられること。」などでも可。
- ×「『力』 or 『宿命』」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A ○1点

『モードの体系』でバルトが、〈A 1点〉

B ○1点

B ②○1点 B ③○1点

ファッションを巡る言説を 対象として 眺めるのではなく、〈B 3点〉

C ①○1点

C ②○1点

C ③○1点

C ④○1点

それらの記号論的分析をし、また記号論的分析が いかなる言語実践で ありうるかを示していること。〈C 4点〉

X 〈分析〉A・B・Cの要素のうち2つ以上に○↓+1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、〈話題と主体明示〉の条件Aを、〈notP～butQ〉の構文を構成する〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析し分けること〉としてゆく構造への評価である。ここでは、〈条件A、条件Bの要素、条件Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、

この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析し分けること〉 〈条件A、条件Bの要素、条件Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

X 〈分析し分けること〉 〈条件A、条件Bの要素、条件Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 『モードの体系』でバルトが、「〈1点〉

※ 傍線部を説明するための、〈話題と主体明示〉の条件。

※ 『モードの体系』「バルト」の二成分が入っていないければ×。

B 「ファッションを巡る言説を対象として眺めるのではなく」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈notP～butQ〉の構文で説明する〈notP〉の条件。

満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「ファッションを巡る言説を」の要素。(1点)

○ 「ファッションに関わる言説を」「ファッション言説を」などでも可。

※ 「ファッション言説」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「対象として」の要素。(1点)

※ 「対象」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「眺めるのではなく」の要素。(1点)

※ 「眺める」の否定ニュアンスの成分が入っていないければ×。

C「それらの記号論的分析をし、また記号論的分析がいかなる言語実践でありうるかを示していること。」〈4点

※傍線部を説明すべく、Aを〈notP-butQ〉の構文で説明する〈butQ〉の条件。

以下の四要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「それらの記号論的分析をし」の要素。(1点)

○「それらを記号論的に分析し」「それらを記号論的分析にかけ」などでも可。

✕「それら(＝ファクション言説)の記号論的分析」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「また記号論的分析が」の要素。(1点)

✕「記号論的分析」の成分が入っていないければ✕。

③「いかなる言語実践で」の要素。(1点)

○「どのような言語的实践で」「どのような言語上の実践で」などで○。

✕「いかなる言語実践」の成分が入っていないければ✕。

④「ありうるかを示していること。」の要素(1点)

○「可能性を示していること。」「ありうるかを開示していること。」などでも可。

✕「可能性の明示」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問4 11点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

二十世紀の哲学者・思想家の思考の中に

ファクションについて語るための

ヒントを得ようとする試みが

あるもの。〈A3点

B①○1点

B②○1点

B③○1点

B④○1点

B⑤○1点

ファクションなど

研究に値しないと断ずる

アカデリズムが

支配的であり、

その知的活動がすでに

死に瀕している。〈B5点

X〈逆説〉A B 2要素に○↓+1点

状況。〈C1点

Y〈総合〉Cに○↓+1点

【内容】9点【+構造】2点＝11点

【構造点】

☆Xは、傍線部の「状況」を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する〈逆説＝矛盾を含むこと〉の構造への評価である。

ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説＝矛盾を含むこと〉 A要素+Bの要素 ○1点

☆Yは、条件A、BをC(＝「状況」)に〈総合＝まとめること〉する構造への評価である。ここではCがあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合＝まとめること〉 C ○1点

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「二十世紀の哲学者・思想家の思考の中にファッションについて語るためのヒントを得ようとする試みがあるものの」〈3点〉

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。

① 「二十世紀の哲学者・思想家の思考の中に」の要素。(1点)

○ 「二十世紀の哲学者などの思考に」「二十世紀の思想家などの思考中に」などでも可。

× 「二十世紀の哲学者 or 思想家などの思考」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

× 「二十世紀」が無い場合不可×。

② 「ファッションについて語るための」の要素。(1点)

○ 「ファッションに言及するための」「ファッションを取り上げて語るための」などでも可。

× 「ファッションについて語る」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「ヒントを得ようとする試みがあるものの」の要素。(1点)

○ 「ヒントを引き出そうとする試行があるものの」「理論的な道具を探ろうとする試みがあるが、」などでも可。

× 「ヒント or 理論的道具を得ようとする試み」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「ファッションなど研究に値しないと一蹴するアカデリズムが支配的であり、その知的活動がすでに死に瀕している」〈5点〉

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

以下の5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点。4要素以上があれば5点、3要素あれば4点、2要素あれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「ファッションなど」の要素。(1点)

× 「ファッション」(を否定的に見る)のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「研究に値しないと一蹴する」の要素。(1点)

○ 「研究する価値がないと退ける」「研究する意味がないと捨て去る」などでも可。

× 「研究に値しないと一蹴」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「アカデリズムが」の要素。(1点)

× 「アカデリズム」の成分が入っていないければ×。

④ 「支配的であり、」の要素。(1点)

× 「支配的」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤ 「その知的活動がすでに死に瀕している」の要素。(1点)

○ 「その知的な営為がすでに死んでいる」「その知的な活動が既に死んだも同然の」などで○。
× 「知的活動の死」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「状況。」〈1点〉

※ A、Bをまとめる条件。

※ 「状況」に相当するニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問5 11点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

A③○1点

A④○1点

近代の ドイツ観念論から構造主義

現代の思弁的唯物論等も

さらにシンギュラリティ等を

A⑤○1点

巡る思想も

思想上のフアッションであり、〈A5点〉

B①○1点

B②○1点

B③○1点

そこでも

強力な思想のモードに 乗りたいという欲望と、〈B3点〉

C①○1点

C②○1点

そこから逸脱しまじう身体との 葛藤が存在するといふこと。〈C2点〉

X 〈逆説〉 ABCの2種以上に○↓+1点

(内容)【10点】+構造【1点】=11点

【構造点】

☆Xは、・Xは、傍線部を説明すべく、話題のAを、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとなして1点加算。

X 〈逆説=矛盾を含むこと〉 〈A、B、Cの要素〉の要件の内の二種二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「近代のドイツ観念論から構造主義、現代の思弁的唯物論等の、さらにシンギュラリティ等を巡る思想も思想上のフアッションであり、」〈5点〉

※ 傍線部を説明するための話題の条件。

以下の5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点。4要素以上があれば5点、3要素あれば4点、2要素あれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「近代」の要素。(1点)

✖ 「近代」の成分が入っていないければ✖。

② 「ドイツ観念論から構造主義」の要素。(1点)

○ 「ドイツ観念論からポスト構造主義」「マルクス主義や精神分析など」などでも可。

✖ 「ドイツ観念論、マルクス主義、精神分析、構造主義、ポスト構造主義」の内一つも入っていないければ✖。

③ 「現代の思弁的唯物論等も」の要素。(1点)

✖ 「現代の思弁的唯物論」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④ 「さらにシンギュラリティ等を巡る思想も」の要素。(1点)

○ 「シンギュラリティに関わる思想も」「人工知能をめぐる思想も」などでも可。

× 「シンギュラリティ or 人工知能をめぐる思想」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤ 「思想上のファッションであり、」の要素。(1点)

○ 「思想の次元におけるファッションであり、」思想的なファッションであり、」などでも可。

× 「思想上のファッション」のニュアンスの成分が入っていないければ×。「ファッション」だけでは×。

B 「そこでも強力な思想のモードに乗りたい欲望と、」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する一方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「そこでも(＝思想上のファッションでも)」の要素。(1点)

× 「そこでも(＝思想上のファッションでも)」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「強力な思想のモードに」の要素。(1点)

○ 「力のある思想の流行に」「有力な思想の流儀に」などでも可。

× 「強力な思想のモード」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「乗りたい欲望と、」の要素。(1点)

○ 「帰属したいという欲望と、」「あやかりたいという欲望と」などでも可。

× 「乗りたい欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「そこから逸脱してしまう身体との葛藤が存在するということ。」「〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「そこから逸脱してしまう身体との」の要素。(1点)

○ 「その思想のモードから外れてしまう身体との」「そこからはみだしてしまう身体との」などでも可。

× 「そこから逸脱してしまふ身体」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「葛藤が存在するということ。」「の要素。(1点)

○ 「葛藤があること。」「ディレンマが存在すること。」「などでも可。

× 「葛藤の存在」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

市場原理と技術的効率化が支配しており、

そのシステムへの最適化が

ファッショナブルなこととして

A④○1点

至上命令となり、

B①○1点

B②○1点

ファッションと身体の葛藤は

隠蔽されて

C①○1点

C②○1点

画一化が進行し、皆が同じようにスマホを操作し同じような情報を交換する

X〈分析〉ABCの2種以上に○↓+1点

D○

社会環境。へ1点

Y〈総合〉Dに○↓+1点

(内容【9点】+構造【2点】=11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明するための前提条件のAを、〈因果関係〉をなす〈矛盾しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉して説明する構造を形成する。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立している」とみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、Dの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「市場原理と技術的効率化が支配しており、そのシステムへの最適化がファッショナブルなこととして至上命令となり、」(4点)

※ 傍線部を説明するための前提条件。

以下の四要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「市場原理と技術的効率化が支配しており、」の要素。(1点)

○「市場の原理と技術上の効率化が支配的であり、」「市場原理と技術的効率化がコントロールしており、」などでも可。

✕「市場原理と技術的効率化の支配」のニュアンス成分が入っていないければ✕。

②「そのシステムへの最適化が」の要素。(1点)

○「そのシステムに最もよく適応することが」「そのシステムに対し最適にすることが」などでも可。
✕「最適化」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③ 「ファッションナブルなこととして」の要素。(1点)

- 「ファッションナブルであるとして」「流行に見合ったこととして」などでも可。
- ✖ 「ファッションナブル」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④ 「至上命令となり、」の要素。(1点)

- 「至上命令とされ、」「絶対的命令となり、」などでも可。
- ✖ 「至上命令」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「ファッションと身体の葛藤は隠蔽されて」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

① 「ファッションと身体の葛藤は」の要素。(1点)

- 「ファッションと身体の齟齬は」「ファッションと身体の矛盾は」などでも可。
- ✖ 「ファッションと身体の葛藤」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「隠蔽されて」の要素。(1点)

- 「背後に追いやられて」「覆い隠されて」などでも可。
- ✖ 「隠蔽」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「画一化が進行し、皆が同じようにスマホを操作し同じような情報を交換する」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

① 「画一化が進行し、」の要素。(1点)

- 「一様化が進み、」「同質化が進行し、」などでも可。
- ✖ 「画一化の進行」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「皆が同じようにスマホを操作し同じような情報を交換する」の要素。(1点)

- 「誰もが似たような姿でスマホを扱い、似たような情報をやり取りする」「皆同様にスマホの操作をし、中身が同じような情報を交換する」などでも可。
- ✖ 「皆同じようにスマホを操作し情報交換」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

D 「社会環境。」〈1点〉

※B、Cをまとめる条件。

- ✖ 「社会環境」の成分が入っていないければ✖。